

## 2 - 2 重点事業評価

事業名
電子図書館サービスの充実

### (1) 事業の概要

#### ● 対象

図書館に直接来館する利用者だけではなく、遠隔地で来館が困難な利用者。

#### ● 意図・目的

当館独自データベースの拡充などの情報基盤の整備によって、多様化・高度化する利用者ニーズに応えるとともに、県立図書館のサービスを「だれでも」「いつでも」「どこからでも」利用できることを目的として、電子図書館の環境整備に努める。

#### ● 具体的取組の概要

「越後佐渡デジタルライブラリー」による新潟県関係歴史資料のデジタル化とホームページ上での公開を推進するとともに、「郷土人物／雑誌記事索引データベース」などの独自データベース登録件数を飛躍的に増加させることにより、情報基盤の更なる充実を図る。

「越後佐渡デジタルライブラリー」については、今年度、新規参加の糸魚川市教育委員会を含む7館の県内市町村図書館や博物館の貴重資料と、県立図書館所蔵資料のデジタル化を行い、約200件の資料を追加する予定である。

### (2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
郷土人物／雑誌記事索引データベースの総登録件数	98,000件	98,985件 (達成率 101%)

### (3) 事業評価（自己評価）

（平成24年度末現在：約94,000件）

自己評価	A	目標が達成された。
------	---	-----------

AA 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標に今一步及ばなかった。

C 目標を達成できなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	郷土レファレンスの中で大きなウエイトを占める、伝記等で紹介されることのない人物や、雑誌の研究論文の調査を効率的に行うことができる索引は、有効なツールである。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	特に雑誌記事索引では、戦前の新潟県教育関係雑誌『越佐教育』『新潟県教育』の2誌の記事を採録し、数千件の新情報として追加した。これらの雑誌については、ほぼ欠号なく所蔵しているのは全国でも当館だけであり、大変貴重な資料である。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	新たに採録した戦前期の雑誌は、旧字等の問題もあり、校正に予測より時間を要した。対象資料の特性をよく見極めたうえでの目標数値設定が必要である。

### (4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など
今後も、郷土人物・雑誌記事索引を充実させることを含めて、電子図書館の環境整備に努める。電子書籍については、現段階では導入できないが、今後の動向を見守る必要がある。なお、郷土新聞のデジタル化については、明治・大正期が終了した。継続して昭和期に取り組み、今後も充実させていきたい。

(5) 図書館協議会意見

ホームページで公開している各種の情報については、操作性も含めて高く評価する。ただし、中間色が使用されている文字について、（意図的であったとしても）見づらいという意見が出されている。

郷土資料等のデジタル化については、今後も継続して取り組み、一層の充実が図られることを期待する。「郷土新聞のデジタル化は大変な作業だと思うが、県立図書館だからできることであり頑張りたい」との意見が出されている。一方で、新規利用者の開拓や利用促進の取り組みも必要であることから、例えば各データベースのアクセス件数など、利用状況に関する達成目標の設定が検討されてよいのではないかと考える。アクセス件数を「（電子図書館の）入館者数」として位置づけ、基本的サービス評価の「入館者数」に別建てで組み込むことを検討する余地があるのではないかと、という意見も出された。

電子書籍については、他の図書館の動向などの情報を積極的に収集していることや、国立国会図書館の提供する「図書館向けデジタル資料送信サービス」の利用環境を整備したことなど、現時点で可能な限りの取り組みをしていると評価する。図書館利用者の若年層の増加や居住地格差解消を図るためにも、近い将来には導入が必須であると考え、状況をふまえた最善の判断を希望する。なお、収集した情報については、県内市町村立図書館にも提供して欲しいという意見が出されている。